糊などで貼り付けられている部分がめくれない箇所あり
綴じ部（喉部分）の文字など開きが不鮮明な箇所あり

国立公文書館
National Archives of Japan

文子園
図書館

若葉上

その名・系・あと・同をもて号せるとに氏乃四千巻とむ質の九
ちなびくとりられとうれ
わくそちをもてにおれをいのるうの部
源氏物語のうり
をれとりれも年をとつ
あるとは巻めて源世九巻乃みをうと四十一巻のまきと九
まきれ又巻りとうとうの氏まきうめもうち
きと下巻をせ一りをうへきをとうとせうへ用之柏
本巻をせ一りたつをうをとうとせうへ用之柏
下法漢出所伝二十上下光あをけうあるあやう海
略之光この物語りとうとうとうとうとうとうとうと
あり柳若葉上をせよりて下をせ一とうへきをうして柏本

明治二十一年購求

と共一あたりてあるは漢書此紀と共一あり上下
紀共二といひ品右紀と共二とそたる今乃例りを
をり曲礼上下礼記共に一巻の中に上下あ
り上と槌弓上下八張人乃張を撥るにつきて簡策繁多なる
あゆへに二巻とり出きて上下とそたりは海の四紀あや
まるもわれ上乃巻をみたるをわるおもうあ
とあるとあるもとそれ上乃巻をとりて上下あ
三宮朱雀院乃女御藤原乃子孔雀院よりてとりの
しりとそとりて出きとも紀乃上に尼院よりてとりの
巻をくてとりて出りは空の儀式とりあるとて上下のま
に行はるく紀あるひいらくにわるとあるとりて巻の
あるとそるあるく代巻に原共九とる四十一家巻と
三ヶ年のものをとりて 并 元原四十九巻と五巻

乃くに弱くとりれをりしとも代巻に原氏共九乃巻
女三宮宮のものあり四十九年 女乃巻の中に懐
姫乃事四十一家乃巻三月十日乃に四の中宮は雅
とそれ 紀 代上巻に五巻原氏へとりれをりを
くるありて下巻をあそし朱雀院の女孔雀にわれをり
せ給へとそくくありとりて巻孔雀とそとて上にとり
るものは美紀の出籍おり紀のまるとあり女抄とんとたりそ
朱上下にとりもたりの書をあり又撥の紀をくるものて
上下とりもつとあるも我紀あるとそれとりは中紀神代
上下物語のそうかに上下にわるとは海の後漢書共
巻孔物語ありてまとにはあくとしものくるはりまや
代巻には原共九家孔をとりるとあり 女三宮のとそれるあり
四十孔年 巻乃事 并 四十九孔中宮懐姫のるの四十一孔三月

四人の中うへ法皇乃ちゝ上と申すあるも
朱雀院の方へと申し侍りしのちゝ乃はらひとまいりあそん
あやまりとゝ申し侍 宗 義のうへ乃ちゝ上と申すあるも
乃ちゝ冷泉院乃母ゝ朱雀院乃母ゝ乃はらひとまいりあそん
もとうとあつくなりまいらせ給ふ
しめさまして 宗 おなじ朱雀院乃母ゝ乃はらひとまいりあそん
とゝ申すひとあり 細 ちゝ乃はらひとまいりあそん
右乃宮乃母ゝ乃はらひとまいりあそんとゝ申すあるも
てしとまりて行ふとゝ申すあるも 宗 悪右乃ちゝ
大右近乃ちゝ乃はらひとまいりあそん朱雀院乃うへ
乃ちゝ乃はらひとまいりあそん左衛門督乃ちゝ乃はらひとまいりあそん
引用書とも 幸 朱雀院乃母ゝ 細 ちゝ乃はらひとまいりあそん
伝安右衛門乃ちゝ乃はらひとまいりあそん

右近乃ちゝ乃はらひとまいりあそん
ちゝ乃はらひとまいりあそん
ちゝ乃はらひとまいりあそん

文武ノ道ニ達シ給ヒ故也 光孝ノ時ニ義孝ノ侍従ノ
女御正三位源和子ハ元孝天皇ノ御女也 仁女御ノ御腹ニ
二男ノ子 敦忠 敦慶 親王三人ありしに女三人ありしに
ちなみ給ふ 弁 藤壺女院式部ノ内侍ノ子ども也
ひと文字の腹也 朱雀院御代ノ立后なくあるべき
事也

まさ腹と申すべきなり 朱雀院の御まま
腹なれば立后なくまし給ひけるを 朱雀院の御代
ノ立后なくまし給ひけるを 文徳天皇ノ御ままこ

みとも清んの乃うちすいとかしきものあそ点ゆくさを行の
う〻 光 朱雀院は心ゆくうくあそ
へあうくうあうの月和よとのつくくもをされ行ひしやそ
かりあるさも行ひしうくひまくにわかくて学中をくくく
きるやうあてうを行めくこの法くくれ女三宮をはまくの乃
法中にまくまくくくあくくあ知りあるひくつくゆのくく行るれ
給はくくナ三四をくるくにかりくひ行あいとくるひくくくて山くくも
つくくちるん法のくふたちくまうくてくくれをくのむくをあく
ものくく行りんみくもくくをくくたくくくれ法くくをくうくあくく知れ
くくあけくくかりあるくくを行ひくくく 光 朱雀院の脱履(ぬぎはき)の澪(みを)
漂(ただよ)をあり
西山なる法寺はくるくくてあくくつくくくをくりんはくとの法つくくき
くをくくくを行くくくく 宋 今れ仁和寺つくるくも仁和年中に
光孝天皇の法建立やくくまくに法くくくくくを法物法くくくくくを
法寺の一の西ゴ朱雀院よくくれ物をくくくくくくくくくくを朱
雀院りんくくんくくを行くくくくくくくくくくくくくくくくくくを八古
乃ちゆくに法くくくるゆくに南北くくくくくくくくくくくくくくくくくく

摩耶とて又義孝卿とハ天暦六年三月より出家あり
四月より仁和寺に逗留あり此物語の朱雀院ハ義孝卿
とにあひ給ふ中納言とも云ふ
ある也 朱雀院の山ゐ乃ゐ准仁和寺ニ天暦六年
りゐん春天皇仁和寺に御ゐ給ひしゐ
と 細 仁和寺也一本ニハりゐてゐとあり
又ゐ乃宮乃ゐ給ふ
ゐとゐ給ふ
いりゐゐれきゐゐゐ

名ばかりはとどまれるを宮の母女御はあてはなるまをはなれたまへるを朱雀院のはつかしう思ひ聞えたまへるを
宮の御ことを朱雀院のはつかしう思ひ聞えたまへるを
ゆゑあるものとうつくしう世のときめきたまふ
世の人はいとうつくしうやさしきを
宴宮は世とともに
年十三さいとりはなり
ものしうるさくしうるさくしうるさく

朱 女房たちとの中あしき女房などわらひまどはせてゆうてんのもとにたちぬ

三の宮ちんじをきこえたまひて細殿にうちてゆきくひとりとゆのぐちあくく 朱 女三宮は女房もありまさに父帝たちとあのこと給ふ

うちとけてこんはの世にたくさんひさしくこんるいとうしろめたくうれしく給ふ御めとしのひて 朱 帝淑景舎の

御のこと給ふ 朱 玄宮へ法つの給ふ

女御あをいうきさきより中宮うまれ給ふ 朱 源氏物語書屋

ふじ御母なくなりぬとそ給ふ

花ぞのゝうへのことのひとしきさきの給ふ

さんと母女御のよりへまさらぬ時めき給ひしかれと

こうゝ行ひ給ふとあるこうゝさしひとしきりとゆのぐちあくくしちとともちくと

うとうとれのあてまに今をひきとあくしちとともちくと

とさとにひとくめでさひうしろんをまてはあさん

まやとそとたちるこうゝ給ふ今行ふと

あけぐれとこうれゆくまにはやくあ

つとまのさくにたるこうゝ給ふとにやくあ

あふくとたくちやまを給ふとあつまといとや

うらうへとやきたれさ海めとわらゝまさくとつくと

そひをれうさうたちとあ用ゝめゝうゝ清くあ紙

ちくを給へ道八ものとそろせうゝあのそのあり給ふる

朱 源氏物語書屋

うとゝ給ふれのよ女三宮をもうくはあ用めさ

しやうや 朱 紙上 細 朱 源氏物語書屋乃

女御ハ為つかれ女院の宮ゐあそばされ給ひしこゝ
出仕給まとてもさのこゝ四条といまは給ふまつりとゆゑ
と為まとれ地ゝいるゆゑ
人くゝ今もなつくゝめてたちよ法皇ゆゑ
給りはつまつりて給ふつゝ給ふるといふとはしてわゝん
宮と給ふ六条院ふるとも法とつくゝひまとつくゝありゝ
ゝゝもゝ給ふ給つゝさゝゝめて院といとゝゝ
ゝひ宮のゝゝを給 宋 朱雀院ハ法位とさゝと給ひゝゝ後
を法給ゝゝゝ

国立公文書館
National Archives of Japan

[illegible]

[illegible]

[illegible]

つけのつゆもなれたるかをとめや
年もすこしかたちてはなやかなるかをとめ
の中にはいとをかしうあてやかなるかをとめ
とをもてあつかひきこえたまふ　宋　夕顔
　細　夕顔はいとうつくしかりしものを
をりにふれたまひしはなの
　大ふのことにつきてをうちとけのつ
あはれを　宋　左遷つかはしたまふ
てらちくしよきうあくにはしらくまさ
らにもとの夕顔のはつかさるらや
つねにをれうまでいとさきそとあらてちんちとうちまあり
ちるをたらとをはくをちるちん　細　まんなちれさらのれあや
まうにくらとうまをちるやをうをもをそや

ひくはけやをつくろうとはけうまうちうく　宋　源氏禁中
のををとをはけうまうちうくちうちうくやを
をつくれるをしをとうをうんとひとをうちをうをつ後ハはるをを
ををうくぬやうめて　宋　栗原（カンキヨ）をはんちうんとをはををとのつう
　毎日ををくあやはけ　源のことを夕顔やをうを
古流のはゆやうんつをとをうくまつはけ　宋　源氏乃年
　公中ををあをの源や　はけ　御をを　年　源氏うたあをに
つうをうつるへををとをはをうをとや
　細　ををハ源やうをうくやいまをを後はれやをくををあうを
ををや
をををひのはをとをあつををを

[illegible]

[illegible]

[illegible]

国立公文書館
National Archives of Japan

の給へるも

今はまことに世をあとをかくしまたひるのまへにまぎれつゝ

やとりをるみがびをんいとゝくるしかるべき 第 ゆくゝ源氏の

くるへきはやうたいりあり給ふもまた源氏とゆひしもと

まことにとりとそやも

うらうらたちくゝしくしきりにたれこめりてをあるやう

にうどをもてのもくらちをるもと 第 源氏のうたうちまもる

人へのゝ給ふも

ゝうちとをてをたれとひとりこれわをんをたれくゝ

つきてはある物をくあいをやうつきをうしくゝうしきと

のゝくらいをたてゝ世にあるくきれ 第 源氏はさやうの時もよ

ゝ物をくあひくゝとをてるやも

をうしくゝうちにあひて 第 源氏のえせゆゝしきとの給へ

ゝ清の宮の御也 此院ゝ上源氏のうるも

帝もれくゝうちをくゝ物をゝ給ひさくゝうあめゝ

つきゝ分をくゝ給ひ人のまくゝあをもわゝ給ひ

くゝて 第 源氏と禁中あをく桐壺のうつき給ひしるも

の給へり

二十くゝうちあへ納言をもりいきり 第 源氏は

院をもてうつれ給へとも世はうちあへ中納言をもも

をわゝ源氏のあゝ給へ 河 六条院の美女

よ任参議廿九を奏さ 勇大将 廿一 頭信乙昌泰二年三

月任参議廿一 年 或ゝ

源ハ廿一第ゝ参議より任ゝ給ひいゝうもわゝる

ゝうちく果てゝとも果てゝ給ひしもも

ものこりあまりてや宰相のくちおしきとうきをなげくらん

源ハ廿一乃ゝ宰相あるくちおしきなり

そまびとにうれぬきいとちゝのれくもゝゝあさめるはつきくハよれお

ほしのまゝなるあるもうゝ　源ハ廿九ゝ夕雾ハ十九ゝひく

す官位とんやくもゝゝなるなり

まゝとなりしにたゝのはくなるもちあるるといふれをあさくな

るるまゝしく　源あゝと夕雾ハあるゝ行まゝしさゝ也

あやまりてゝとあるうひをまゝらるゝたるあるいゝゝとあんな

やめてゝきを給　源ハ給あやまちあゝとあるゝきゝるゝ

ハ源あゝゝ夕雾ハまゝゝんゝゝ俊のめてゝきを給也

姫宮のゝとうけゝ者あくけゝるゝあゝ給ゝ

るゝと思ふ給あゝもゝんゝやゝしゝあるゝ

源ハ廿三　源ハ三宮のゝ

まゝうさあひあゝんゝゝとゝハんゝうゝしゝゝゝ　源あゝゝ

しゝさゝゝゝゝゝゝ

ゝゝゝゝうゝゝんゝのゝゝゝゝゝゝ

のひとりをゆるしたうちなすめてそこなうべくうらもれ
ひろうれといと　栄　枝蛙中宮とも
如法たちあまこいまうべきこうしろをもくあべ女三宮
その中なりしらひをもるまし　きとも
さやうさくにはひとりをのもし　夢をるべ人めてはめるとと
の給ひて　栄　夕雲をはめるをもとも雲あるをもまさい
ひあるをもひとりをありしは女三宮うしろをもとの
給ひんはとも院乃法こうろへも　遠逐（キオクサリ）
中納言ともとうもいとまめ人めてこしも　栄　女三宮のめ
はやたちうくを雲れとをとを　細
うれをうをにんをうもてはをれをにこひうろふをくをはを
ひうをうにうのこひうをひていとくゆくこをはを
　細
　云わるうを

かの院こそ中くをあをとんをうれるにつまてをとんをゆくくあか
ーくあ四ををくこはあのをさをを給をん　栄　源氏ををんをも
らをはゆくをうを給しんをもその中あくをとを上麗をとのそ
をを給ひくをとも　細　六条院も
（イ　代中ヲシ）
麗んをとをを光源氏給ひをくあ　細　栄　上のあの　中宮を
をもあ給ふんの和をとも　栄　栄ををもを中宮をあそ給をを
若御院をををもいまをに三をををくをををを給をれをを
をも　栄　撞乃宮はををあをんをを源の四をいを麗をんををを給ひ
を給ハ四をををも中宮をあそ中をあめををやををををめををををを
いそをを中をりをを和をををををををハいををををををををハの給を
ををれを　栄　あををををを中をををを源の中をををををををを
ーーををのをんの給をんをを
をををのあををのをををををををををををををををををををををを

とも仕やうてはやうこゝろうてはやうこゝろうあくさもやゆうをた
ゆうくまうもとも思ひしめすへ　第　源のさひんまさくく
うくの中に女三ようとうとうさやうさもんうりうくねも
源とはやのやうに仕くめてうまたゆうてをさやうされ
やうくはうしめうへくとをさうてのあ
ようきてあくせんとをうん女こうくはるくくのんに
あうとに仕ゝそハ　第　院の御祈やあるをうんうもあうはを
んとあるうく源氏の御あうにうちうをうをた
さうくも
れくをまうれくくく

国立公文書館
National Archives of Japan

わろんひとのあしもあしてとのつくるこひのほうれとしあはし
ましうろくしき物のとをあくんこれをふかうさ海をうもとう
らうしうろく 第 清めれとうこもしなまさわをたもいやう
のうをとうしいそんとうろくうろくうもも
清くんとる芸とをかくもこれ市のたうまうたうたうう
うまうろくちんあうへき 第 俊の白生世れうちに女三宮れ
清らのいやうあもはうさまうろくうれとたうんやを
くうへはくへうんとも
うこれをちうやうをのはをいとををはうめうくあ
ちうまうをのちれをようろうきうく 第 みううきん
をも女ハをくせちうをあ物をれうんやうれうるる
きうあうんうあけうくあれとのうこ物也
かくあまうろ西中にうるうをれ学ををはくよつをてをん

のうをねうあうへうあうをと 第 女官たちをうくうまうしまれ
中に女三宮をとうるをれ物のやうにあさへのうる
の女官たちれめのをちををねうはうんをもうされ
をもちうをををををしやをあうくうあ也
うそをちうををををくあうしやをうくうあ也 光 常夏れう
乃物也 紫ちうををををうあうくうををををくうをのん
をうう又ちををさをあんやを
并ひうれうへきはをとあうくうん 第 めれとれ方中并れうる
をれハ六条院のはうをハうををををををををうあうんと芸をう
物也 細 方中并の物也
隠ハあやうしきまうて清くうあうくうれとあてをも見をめ清うるへを
清んをまうけうをををををををを

源八郎ちゝ四郎あつもり 後八郎うまの
ちう殺さる 仍 年紀六歳 後白河の
御ん子ちゝ殺しあつもりをうばひとりて
是八郎ちゝ中務あつもり一所のてゝあいなれたのうちとれん
人をうばひとりたるをひのやうあるこゝろも 細 ぞんじのうへ
仍 ぞんじのうへ
そもたちてうとてひのけるもさあるべきこゝろ
ぞんじあるべし 細 ぞんじのうへ
ひとりたるとも
清もとくでありてゝしきやうにはりまひやうもあるを
ひとりさんと申ゆゑとたちをひくをちはと
ハゝうあるべしやうにハゝうとうれと 第 女三宮の御
清盛ありてゝ ぞんじのうへ

中ゝ中ゝ三宮はあるべきうへ
まさひやうはりけんとゝうゝ申 細 ぞんじ
おうゝくのうひをたゝちあてまゝくてハゝにとも
れいゝ申ゝうゝるくゝとあるてちんゆゑ 年 年
細 ぞんじ
ちうあるゝ
ちはぞんじのさうへゝのうの学りをてゝにんゝとゝたゝとゝ
あるゝ女ゝちあてちんゝのゝとゝとあひわゝ四りゝ
ゝあるゝあるゝとあるゝんはゝようちくゝたゝきひゝとゝ
も殺ゝの給りひたる 第 源の清盛ぞんのうへ
郷ぞんゝるゝていやゝれゝ源のまんくゝゝ給ひゝ
年ゝあれゝにゝるゝ源のゝるゝあてゝもゝくゝ三の給
ゝのゝるゝゝゝゝゝのゝゝゝゝゝ

国立公文書館
National Archives of Japan

宋
院の殿うちにたちまいりてうたをよむ
なかのゆきいうまひ
年ごろのゆめいうまひあはせ
ゆゆしきまことに有へくはせんとすんやうし
宋 女三宮の御方おもしろかりしの
ほのかに聞とあるもとさうもとめれと宮を御出あり
ぞうされまくに中さちれてうをすやうとうつくしぬへし
つきのうへさくらのみつはんかとりくにつをてひとあるさくく
御ものまいりまいりけく有うにて清涼殿にて物語
宋 もとめれとの御やこのんてをうつ御ものうたうとあり
し給くもくへさくさ給やも 細 めとれ河やたくへさん
うくれある年にそいう やも
きくくうくにおうつくしんくうくにつをてひとあるくにの

[illegible]

[illegible]

[illegible]

つまてたてつかるるこのもとにこそ
又そうにさきをいんとともかハ男にこゆるにつまてこそやし
をあることとしめさまし〳〵きはひとをあつ〳〵うらまし〳〵る足
さちのみれとうけきとんとろ〳〵ひとくること 宋 ひろはるよ 籠
とかの孫(エン)うつきそるにをすふせあのるのるゆ〳〵きと
とろあるとも
又さるへさんてきちをくまてあのむうあるもにおのゆる浦
宋 又母そのちうそあのこたるへるたちとくれてとも
んをとそてあをあ中にをくさんるもし書いんのむきうう〳〵にて
せうゆるちるまうきはのうるるとハをとるとあ物とあ〳〵ま
母とろをあそもたくしし〳〵ろうろ〳〵きこともるうう
ふまて中をのうう〳〵ゆるりてるさ親の家よあうあ〳〵ま
しうれし〳〵のむしをあれををあとくしし〳〵をまにをきと

のもとれはるもにをるとをちあるさしてまて
宋 んハをとのむんちもにうるまてまちとんをにををまん
ゆをんとと書れんてをそんのゆるさ親にんて三ひをとをけ
ぬをすにるをひんれとのをそんうにをうう〳〵くるれいを
ちちちあるうるもとをきくをあをんもくいをまを
とのんや若ハをんちとをハ郡(レウビ)ふあをとをうをうう〳〵やも
院乃古河也 河 平ハ切顔(ロツイン)ニ云也利也易也
るにおやのあるてををうを弟あをとをうう〳〵しるをそひあ
中をのう 宋 もハををんちとのみ〳〵をるをんをうあひくをふ
たてハおやのたるてみををハをみやうかをうう〳〵とうるあ
んや法の河をうを我をんをてとをのんや 河 をうう〳〵しるをんおやれるにうけま
河 うをををとを書をのをれぬ代春を元乃坊のてとををうをうあ

ひめてゆきをこみ　おなるしらゆきにつきてもくせるもと
いふなるこのなまりうらにてさきまれてこそつりうらめうこもん
第　人のもとくさとさきらぬまのまれとうひもてゆきをくさきろ
さきもこそ　ふるこもしおこうこ
宮ん　ものとちるくおのしめひとも　花　ちのをあのとうくし
ちうこちこまちなるをこうあやのあるさあうめうまつ人
のはをめれちるとうこさきをこれおりうのをたちちまれ
あやのあをてあをにたるといふひもそへゆきをこおるすせ
なるさにたるんもこそ　舞　こるを下同るのやこそ　紙　同こそるを
中せこ同るのやこ中
もこうこあうくもうくもしさうるへきこのなりゆるこきくまて
あて　芸　とくくひをもくくをこうくこの世はやとうあ
ろ財ともこうくこのあやうちあるもこ　第　芸いこうを同

のことの名もなをおやちもれおりつをたるまうあくもを
まうにのちあうこさちうこにるれこもこまいの女のこうみて
ちうこあるこやも　紙　ケリ　ものあやのこよ男をひんこんうあへし
紙　センアク　善悪　ありつをこて行やのちあたるるうあれこをこ
のうるこうやも
おうをてこうれこさんこもひうこめをたこにたるあるこい
くこあもあうこちうこうこ中こうのまこるをたちまち地山
うちこさうこうをたるはこをあやにこうこまこた　第　芸一女のうう
なと男にあひこあて行もこもたうあまここそうこうん
名ほこうをれこあやにくこうこをたるこもあるこ人こ
中一のこさひこもも　元　芸ハトにあやにこうこまこたこうへき
人こもゆるへぬこんつうこあひわこうこたる女のるもあうへ
ていこうれこさんこいあうめやもたるるにあるこうこもあま

国立公文書館
National Archives of Japan

つねよりもきこえをんなかほ[ハヨ]なるものしゆ出てはうれるもの
細 めのとあまのつぼねいさうひんへうしもとも
ゆゑとてなりはるとん後の世をとうろめるもにつひやすこさを
行へを[ルイ] 第 みんのきうんとんのもちろるものを作るもの
ひやくうろうろうくこあうり 第 院の時つのつ落るものを申て
細 めとちちろいよくうろうろうさるものにこひのつるも
細 後のとれ也
今まうろ物をとうろと落のはとまてかもくさんとうとて
うろ法師んしつるを 第 院のみうとの法師也
ゆうれはいもうをはかぬへさやちれうるにこもうれてか
葉の六条の御とくいまはさうるとうもものんはてうろやもさ
うるもうれうちんと 第 院の時ぶ部とうれさうさ時命
じあやううるもうれうるもうれうれて姫宮のうるものとやかく

とあつひ落つも 平 法師のほんのうろやうさ
うるくにあまとはせうるへをくんうをうるへさみうもはうるへ
とそをあくあもくへうんうくあり 第 六条院の御とものんをを
てんやもくおけりあもとも法をとうろめうるくはも
しまを宮をもうをはうるもうろめうるくこもうろうめうるくはも
女三宮のうんうるうもはるはんやるれんやもさんうる
はをうるうろうをはるはんやるれんやもさんうる
さうるへさとのほんも 細 うるくれ者をを
のうるにはちるて大うるうるのうるうるうろやをれうるを
うるくひるくはをうるへんあり 平 源氏の時るものをうる
花 源の品とれは貴姫とのはつも
さらてうるはうるへさんをれうるをうはほうん 第 院の時
めのをたちとうんうるし落つも姫宮のうるうるれるも

国立公文書館
National Archives of Japan

うくめとれんも
たくひとへてはさくまちふんうさとうこれと
にいはさくめんきいとあうひはかうへさうにちん
宋 をいうくあはをいうはをのうさうとにうひはさめ
ていくうかうきうも
ものをはきはくたうふなくさう 宋 月月のうはのうはかはねはす
あうう家にうしめてたまつ梅木のうも
月月のうのうこうはうすを勝月
宋 梅木のかこうのうすを勝月
月月のうはのうはかはねはす
月月のうはのうはかはねはす
梅木はは毎月月のうも勝
月月のうはのうはかはねはす
月月のうはのうはかはねはす
月月のうはのうはかはねはす

国立公文書館
National Archives of Japan

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

ちうれ弁してそうれいくあるへはうくへ宮こさを行ける

第 家は右中弁にて源へあんなへとをかやや

此宮の清るのかくあ間ーとつ敷さ風ハさそくこを清宮

をそれ行へきもんこうるーき清るあもあるるれ 第 源乃

初女三条乃ちすをの給ふ也

さそくありとも院の清世殿をくるとして 第 朱雀院御

五世のこうとくもとうとして源氏の清ぐまりていハ

まてあるーるをんこそう女三乃清ーろこと八うをとく

世ーとやとれんいうーろこきんしやくるへーまりみとん

源の殺すをの給也

ちくめそうへいくたちをくれしやてうそれ清ーろこ

のことをハうをこうをとやをうん 細 朱雀院ハ源氏り三家の

あにあるーまりーりの也

きこいこうひとあやまるあるーぬあるーれはとものうを

とまるうをこうをとはるーハたうにつきくいうまこの清るみをこと

をうこれりやをるあちをまるへきあもあるーねとえかくるり

うとうをてうをこうをきをりてんをとうにこそうーろこをこ

うあやをうあを 第 変ハ右宮ハ源氏ハ三十九也

つを給ーくうを也院ハ四十二源氏ハ三十九也

そを也こにいと不宮をある世れはうさめるりやとの給く

第 うやうにやをそうあるーをもをあんの清はうとにうーりてう

ろうをさんりあるれとをうをとはうまるぬせとや

細 源氏くくとハへくとてくくをもるくハうんやあうを光

世間あれうを 第 蛍 初やを

まるーあひとへりをのまれをるへさををちにをうひるを

やのうんうとをいとやりくに 第 ふんよひとへるるのまれを

つたへハせをちらんはのゆくへかな
うちつけをせをさくらんさいかるへくこうつくれたあり
もあるさうくぬるゝにちんはるへき中納言ハ年日
くうろくしをやうもれとゆくさたをとくてくうくとつ
みよ野ほのきの清らうろんとをめくさあひさたるあ
くさをもおもしうくんよちをとうれうくんされといとい
くまあちらあをとくんはるをもあくてなあれをうを
ーくくうくをはるのやあくんるをとの給く
うちつけき　第院よりたちつきをはるをのうきんと
をうはハ二十余をうるをとりをのんをん
をうくうハおもしをもれをうるさ後ある我　第　源氏を女三宮
のうをれをひをれ出給つや
年をハおもをれををめをもあくぬをとをくの給へいとを
しくをうちかをくをうくにあをしをうちにあり
さ後をとうくく中院ハ大うこのはうをあくと
ををうくををに源のうやうにをんしやくしを給へくをうちを
しくをひくをあくて後の一宮ハやうをを三給つは
ををひくく年うを
ををたうちをうくをとうをしをうを給んをあれを
源氏のを後を
あをうちにのくをくをゆくをれのをうをとあれあうう
しを第宮をあをうちにあうハあをしをはまうにうやうに
清をあんををを
ををうちにををを給をあ第冷泉院の女御にをうをへう
うんをを
をんをとをををまのうくををうをををををうをををとをう

[illegible]

[illegible]

[illegible]

年とり迄も朱雀院より御ぶんをとりてさうもあるべし
しかるに行幸 第十二月なりとつつ 第 菊の花のうつろはぬとき
くに行幸とつつ 第 如三宮のはくらの御き
ようつあるべくしく御ものたちて
と又御出家の下ぶくにあるべくしくうるはしき
御ものとりあつめしいそくさうぞくあるべき
もとるまてのけてくくしくひを
河 李部王記云天暦六年十二月廿八日昌子内親王初服裙
至上親結腰給其賠物従内厨子所并綾二疋菜漢臺四
中〻銀瓮綾廂同小瓮二中〻銀土瓮代綾菓子親王家秋
烏犀御帯一腰玄蕃四巻朱雀院并廃后男女官饗其侍
侍十余人召弘徽殿南廊給酒肴中宮織給禄〻
昌子内親王のくらの御ものとりて朱雀院の御ものの
ものとりあつかひのけらやとあり 右朱雀院より御の御方
産所にて又玄宗の宮あるを 第 御裳殿あり
久殿の御 第 御殿や 元久殿の西の方とも
御 御殿朱雀院りあるとく細同 第 御梁殿 右町つやう殿
ちやう西面にあるべの新也
御張 張の朱張よりまとくのあやあるべきとしまのもさ彩
張りに 第 張とは戸の口はれあるのを紙にかくやの 此説後世
りのうちの后のうちとあるべ御ものうるうるくくし
くくやくくちうちくくのへさを行くう 第 清涼殿代
弘仁八年に男女の衣服唐のはをもとつくりまつをく
に人のう河海同 花 関礼云后六服褥衣褕狄鞠狄鞠衣
展衣禄衣というう 恨帝偽云又命戴步摇金璫
明年冊為皇太子半后服用之 細同之

ゆこしのあそはさとをくるとかきをはつり
くれはをとくくあつすのあくる人あるく　第四段　有家卿の行幸也
河内の右衛門督兼義卒三年八月廿七日女宮法華堂にて
一期沖者のちくはとくゆしまつりつく
光孝紀云義卒三年八月廿七日庚子四親王法華堂の
うしゆしまつふ一条右大臣の御うしはきつも
御うあくをはしくれとかんの法ゆをひくしまつりむさ
ゆはつひいまつりはくしまつりふくる　第四段　有ハやうまし
さんとをうつ
ゆ後二位の大臣たちうれはつれ垂アるとをまつるはさ
うあをとあるちに大臣あるひたをきつく御うはつ
ゆ後二位の大臣　第　右大臣右大臣のうるもの　細同　孔雀をを
ゆ

みをたちは八人あるとをはさはつりをを宮はをはつりを
御うはをとあるはつりをはつりをはつるひをさるう
第　さいはをはるう　武部の宮と始をあるあるを多ゆ宮
なるうへ
後のはるすはひるひてををはちはめられとんうをまをををとをしめ
をうて心をうるをををうはつて　第　朱雀院の法はををを
へををうの八色まをてををはををを
義人は法をあをを屋のうをあをををををををををを
後をうををはををををををををを

[illegible]

と　宋　[illegible]

[illegible]

[illegible]

徳爵園の三の中に一色あまきとそうもの　幷同

私云　法とをかの爵八宮位嵩いかなるひのもさまてて

[illegible]

[illegible]

[illegible]

中宮うちはさうそくうつのそんことにてうせさを給て

[illegible]

[illegible]

[illegible]

ちゝ　あるこゝ　なほ　いまに　ふるの　小橋　そ　神さひ　て　年の
中宮の　はつ　さく　あく　こゝ　はさ　れ　こゝ　の　ん　や　こゝ　は　さ　も　ある
まて　そ　柳　の　えん　や　ひ　こ　ゝ　社　は　中　そ　伊勢へ　下　れ　時　た
極度　ゆ　こ　は　ひ　こ　さ　い　り　さ　こ　ゝ　ひ　こ　ゝ　橋　と　と　又　女　三　宮　へ
は　さ　へ　行　へ　と　き　つ　こ　う　た　る　こ　ゝ　る　こ　ゝ　る　こ　ゝ　の　ん　を　神　さ
ひ　り　き　り　と　い　こ　こ　ゝ　ま　う　と　正　久　花　げ　ゝ　あ　こ　ゝ　ろ　ふ　り　こ　ゝ
ん　あ　う　橋　を　い　ま　こ　ゝ　い　よ　さ　ま　ま　ま　れ　い　さ　こ　ゝ　あ　こ　こ　ゝ　と　こ　ゝ　な
こ　う　捨　き　こ　ま　れ　こ　ま　こ　む　の　ふ　橋　と　さ　こ　ま　こ　ゝ　こ　ゝ　こ　ゝ　長
ひ　す　ひ　こ　こ　と　い　は　さ　こ　こ　ゝ　あ　こ　こ　ゝ　い　さ　こ　と　こ　ゝ　い　こ　も　こ　ゝ　さ　こ　ゝ　こ　ゝ
と　こ　こ　と　こ　ゝ　あ　と　用　ま　め　も　捨　き　こ　た　ま　こ　に　む　き　こ　る　こ　ま　の
は　こ　ゝ　ま　こ　ゝ　ま　こ　ゝ　ま　ま　こ　ま　ま　る　う　神　こ　さ　こ　ま　こ　ゝ　こ　ん　乃
こ　と　こ　こ　ま　の　こ　ま　る　こ　ま　こ　ま　ま　ま　い　こ　ま　ま　ま　こ　ま　ま　ま　ま　ま　ま
き　こ　ま　こ　と　と　に　こ　ま　こ　ま　こ　ま　こ　ま　こ　ま　こ　ま　こ　ま　こ　ま　こ　ま　こ　ま

れ　こ　ま　こ　ま　こ　ま　こ　ま　こ　ま　こ　ま　こ　ま　こ　ま　こ　ま　こ　ま　こ　ま　こ　ま　こ　ま
ま　ま　橋　よ　え　ん　や　こ　ま　こ　ま　こ　ま　こ　ま　こ　ま　こ　ま　こ　ま　こ　ま　こ　ま　こ　ま
こ　ま　神　さ　ひ　ま　ま　こ　ま　こ　ま　こ　ま　こ　ま　こ　ま　こ　ま　こ　ま　こ　ま　こ　ま　こ　ま
こ　ま　こ　ま　こ

人をれたる
はなちとしてしれ義をとそ侍りしと
こゝやとの堂(シウケン)祇園のうしろ
侍りつるに月ゝ物あもう方世界はなれ
宋 朱雀院はなてしかの中宮の
ものの宮をとも月ゝ物あもとうやはうし
ひうれ数へしつものふとしはは長久
いとひあまふはくへ平中宮は女三宮をはよへ
ひ四(ハウテ)物あもうれ四ゝやう文字清濁四一動合点(カウテン)
やうそ(ハウ)ひ(ハウ)ひ行へる時心ちいとうしうしく紙はへしつ
物はしはしあこの侍りそれうしてはは三日をくしてはは
あれはは侍はは乃中れんや
ようしはは侍はは 宋 はの侍はは乃中れんや
ようしはは侍はは河集 日本紀

大概書ノ細

ようしはは侍はは中ノ品のはへさんや
侍りそうはは侍はは 宋 女帝文武天皇
四位のうしはは侍はは侍りはは侍はは
ようはは侍はは河集 日本紀
ようはは侍はは侍りはは侍はは
とあるはは侍はは侍はは侍はは
ようはは侍はは 宋 藤原の清乃はは侍はは
ようはは侍はは侍はは侍はは
ようはは侍はは侍はは侍はは
ようはは侍はは侍はは侍はは
山の寺はは侍はは侍はは侍はは
ようはは侍はは侍はは侍はは
ようはは侍はは侍はは侍はは
ようはは侍はは侍はは侍はは

[illegible]

細 校戒乃阿闍梨や

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

細 女三宮也

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

あるのとうち桟敷や

行ゝ

ゆくゝにそなたゝ

朱 とさうにつまやくし

ゆんのちとくしうあはり車あるゝ

ちめるとはるんき

うさうと 朱 右上天皇御清涼

車はあとくゝじうるんさにはさの

檳榔車にのり給ふや 唐庇ちとの車は後は出車

と必うり 朱同 細 つゝの檳榔毛の車あるゝ

車とゝ中右うり出車ゆるもの

うる後あてゝはうまうる後めてんゝくまちうるゝ

えるゝを給ふゝうるゝきはゝ

ゝちをゆゝつりてあるん

ゝめんあうゝゝゝゝたゝあゝまはる

ゝ杉まゝゝゝゝゝゝゝ

ゝ後ゝんゝ給ふゝ

車にのり給ふあるゝ

とあるゝゝあはゝゝ 朱 源のゆるゝされるや

ゝゝあゝゝゝゝゝ給ふ 朱 久しゝゝゝ

右衛門ゝゝゝゝゝゝ

ゝゝゝゝゝゝゝ

ゝゝゝゝゝゝゝ

ゝ

[illegible]

[illegible]

[illegible]

ちゝくしうしぬ月あてゝ世をすてゝ山ゐ
ぬ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ

そたにうめ手はつへきさとりはつくへしぬはしはつくへゆくさたのことは
しまやもしへさしはとはつくへはとく　宋　女三宮は御ものを
うまとと一事はうちに出をはつりめはうとも
あふみちとうちとはあまてを出をとはのやをとりはをはまつりまと
はつりうちつへしやんひものくく　宋　玄宮は御座りて
やはひくくまてとたくくひはうんとちうんちれも
さいひあをもは女三宮ちとにはかをうやとは御四をきへ
えうまくくさとも
女の西たあにあんとうとは帝さやうはるはんうをまうへさに
をはくくさををはり　細　はうはとは玄宮の御はんのまうをはの人を
まとと女のうをあるをあをは御四のまくくにうをうにはると
はうるへくしやも
とへあはの西たあはあをはは
くまとはたくくちとをを
はのはうをとうへさとうちはくくはうをうをはくくはぬ
るはにをくくはは雪はは御はりはとははるはんうくはをはる
をさうはにはうをは　宋　女三宮はくまはのくくはんとはをへは
はうへさはまはくくはをくくはくくはくくは

さんゐんのこひうるのはなとく　宗　院の西洞院　細　院の西洞院
そのほとりのこと　宗　ありつるとも
ゆめ〳〵のつもりあり　宗　とかくはかなかりけるとも
みさしのこと　宗　ひてはつるさきのことをしるつるこそひとの
うらめしけれ　宗　磯天皇　細　おさめはつりにたるとも
えをしくはつるとあつまりをやかりそめてり
女三宮と雅　細　同
まうしてのこと　宗　ひとをとるこそをみて　細　院の果
しての法のもとにまうしたまへるこそ今はいま
しめられること　宗　とはるるこそさきのよとも
ものをしくとつのへらはしぬとうすつる中あとも
さうるはるくさ　宗　にこひとつひはるかこんやま
ひとはゆるとゆく　宗　ものこと　細　けんこん

ひとつくいからもてとさはつへきのるれとも
これをもてられはとあるもなるとも
らひはとも

こんりんの　古　ものあしあるこ　宗　はるはつ
うをもくしはつ　宗　はるはつ
はつしつるはつるれと　宗　はるはつ
はつるもはつるはつ　宗　はるはつ
はつるもはつるはつ　宗　はるはつ
はつるもはつるはつ

わうもをはへとも
ちとうへくとそはりくれ　朱　夕雲はひとるもとはれはや
く法あるをしるへくとをはつてるの法
たまくさとも
はひまくらくんをくんて行くはし行と宗法
般　朱　四方の方改方方方はいまくらくとと
色さはいはいまくらくとあるをしもと同のとも
中納言の行はるあやうれるはくいとくはくまくりぬへく
行と　朱　源の氏義や
あんくとくまくはくくあるをくまくくそ行くあ
朱　夕雲はあ年はくくらはつくとのくや
くくあるくくくとはくんあくくくくくくくをはくくへて
はりはは法はくくはくくはくはくはくはくと　朱　源の源義に
くくくくくくくく

院の物まへりせんうれりをうんなはもちもとむしにうり
てうるるとんくるうるとしのうきひ孫宗流さ流のうきをうん也
きううにめうりうりうもくいあくもを浮瓶つくれハ素院也
もいめうりうあうはうくらるうへ　光　経朝行幸時ようよ
浮物へ芋掘盤六ヶ有お数等流者乃盤可
雅之浮瓶い振舞浮瓶彼用之瓶ハ惣等を瓶とうるあ
つとかの振乃瓶や宮多はの浮瓶ハ振舞月三日朝勅
のたの知恩院　仁和寺へ行幸有ける筋能を撥せ
らまして又平三郎しに行くうるとうあるとはるあ
しくはを瓶をはやしうるもあるはあるはの浮瓶の瓶かくれくく
立居の時乃行り暫るるのくあり以物絵り米崔院法和
家の振浮精を物あくはの浮瓶を用るを行る寛平法皇の
ひしのはるとまるるひはるるはるるはるる

[illegible]

[illegible]

[illegible]

国立公文書館
National Archives of Japan

[illegible]

[illegible]

[illegible]

国立公文書館
National Archives of Japan

国立公文書館
National Archives of Japan

世尊の教給へるとあるものハ仏ゝ世尊ひあり給
あに女三宮まうし給て世の人乃まうしんとそ
こ大将ものたまひ給とも并人〻まうしんと
とも世尊乃教給ひなるものとをけるやうに
年をへぬ 紫雲院ハ女三宮ようひ給ひし
ほうをまうし給ふ 宋 源氏物語 元細 於同
世のし給ふるくゝいとゝちわりしくおはしまけく
宋 女三宮のうちゝ九月とか給へ〻女房ハ宮
給とは行うりあけりを給とも宮御乳母大納
云ちとあるへし
うちあもはけ世をくおりて世をくなけるほとに所はをく
めとをうしておはしまとに参り 宋 はつうも
御へ女三宮おろ所をとも女房乃所をとあるを
給へ〻

さ敷ハ〻とくゝはうまちに所ろ給ふれハ法華乃
あるもをくしめくもくさ世中ハいとをくをくてう
ゝくをとをとの乃ちくをくひ世ハくくく

掃くれ流れの白河院の御所を献じたるに、[illegible]
[illegible]ことあり。定綱ゆけり。大和尼御前遠の小大和の中[illegible]
[illegible]を流を用ひられけるに、四位の女房蔦葉
蓼 荇 菁 御形 源氏 佛座 四十[illegible]
数のうるをとなりやまいりの物ひるをはてられたる
うるをめて仮也 右とあるを仁和のみとんにとられ給ひ
[illegible]ありもも笑と行もあるなり 元 四長二年
四月廿五日甲子天子四十[illegible]
度有其儀 宋女調和若菜 巻[illegible]
乃古賢八脱醐法の法[illegible]
仏物給ハ顔品乃[illegible]の室[illegible]
[illegible]ひられるとひ[illegible]
[illegible]

[illegible]
[illegible]
[illegible]

院の内南の廊にたてまつれりしをそもやあり
細 六条院の女房也
屏風のうへに絵もかきてあり 宋 遠の代りにかくおとうの
集のことくにかきたる物也 和 白き絹をかくしたるのやう
れやうに絵かくことをかくる物也
みくるまのかたち物也
うすいろにいろとりたる物也 宋 いとをかけたる
象牙をもてはこみたる侍るとかたちとかんこかけたる
略したる象牙 細 いとをもてはこのうへにかけたるやうなる物也
わくにかけたる侍るいるもの
ちらしかきたる 宋 地敷也 唐絵さんのかたちひやうしの
十枚と長して合たる物也 ひやうしの紙に五十枚と四
富沢庵南庭鋪 地敷二枚 其上鋪四幅帛 絵筆 破所
元 地敷ハ唐絵ヨ大文ニ成 羅をうけたる物也 あるひハ錦
地敷あり 并 唐絵ヨリ大文のある羅ヲうけたる物也又
錦 錦賢のちらしかきたる物也
つとをさしたる物也
沸 ぬ 河 苔
きりきりすもつくりたる沸
河 脇息 同 検息 西善沸 紀 蒔絵 大床子 三脚 其上立 紀 香服
息
ちりんの内沸 ちりんの内のうへ 宋 螺鈿 ちりんのうへ
沸 居 ちりんをかくる 宋 四 ちりんをかくる 細 ちりんをかくて
十 紀 宋 たるゆへ四あり たるとハ四まをとつて
たるの内ちりんの 宋 素材ハたるを材中にたる物也

ふくこころをもれたることをもゆるすこそのちとやう
乃地うちくくとをはしし行つり　第　考異素若之実八高
命乃ことあるれて菜用ゆるはをといひんそくこの
都やうをれたこみくくゆうこそれはうの物ことをるく
第やうちくるるとと同
清水
清水うちくくのたのあそちんたくんをはくると　第　はくり花とーて
葛りもゆるやこれて花とくくて物とくくはんや
細　芝花を葛りてて花とくくはくと義乃也
うくくをあやめをはし　河　一切の物り紙のおるとはやめと
くくやくと宝鏡や玉とれつをめるとくるやあや
をくれるくくもや
物ちくくをくくをくくくくひるくくくくあり　第　くくくく
乃花れ金乃るや色はんそくくくしたるていや

いまあうくくくもの玉物のこやくくくく

人のあやまれるにあらずまことをつくしてこそ年月をへて
なり給ふいとをしくそれとなくやうるるをてしもか
ふてはあはぬ事のうらみ給ふ　男法さんのあやまるもやうる
くりかくあり事もいとも
打さるれ共もいとうらめしくて物語の細むつかれるさ
らも　孔のちうたゆ者とかたる人も法師なりけ
時三四人ばかりも
書い給ふいらつてもいんせ物とのたひけるを
むつかしかる二人ばかりの法師の月を乗てでんとかうと
の給へとたゆのさうやうはいてにたて二ばかりうん
でもまり給へるも　細むつかれるけるうちと法師
ともやまりきさうにたひし
たるうにはいたりふかしんせきをんとてのうらあるし
やうにうりもとうこの何ものとしもあるこもあるかし
も　元　数年の法師二人のちにたゆ者とかたる
法師主木枯の同胞男女とうやうまりとれむつ
しにまりをなるも少うむつかしのあるよ系ふさ
をのふ松をうはまてとうこれなるはいたりふ
もありとけうこふて年同ろく細花るれ流むす
むつかしのもこも三四ばかりもめへ
とくるようとひとうこれ物めくことにひとりめまて
ふるあるうこれ物しさ法師あるうもるもと
ふるはりくしたふるむつかれ物ともたくもりれや
まてこうこれさ物とるも
うふとくれのうりまんうりたるれまてこひ

ちてるくもゐのなかにもとしたちぬる　細　沖まさしたちぬ

中納言ものいとまもなくまうのぼりてまもなくかへりてまもなくまうのぼりぬ　細　雲ゐ行路也　宋　夕雲八沖ゆくとつまたはるかなりしかりしかりしか

きのもとのさとうや　琴同

小松原とをちかひよりをとこ　細

すみこそとをとこのようとひとまて我身も年をとるろ

にはたづみへ　琴同　宗　源の氏の小松原をとの齢

むらうつの清水のさとひとりとまて源氏とも

はしめ人なんやうつんや我身をわれとうとくよ

月なかうつの面影のとく松のうちひとまてくるもとの

とつしとも

河

春はるかるるかねと春たの年ふるとつまんとそ

ちとやのうつ紅ひとつ紅ひとつ春ふるさとにつき

紅武ノ宮ハ春ノ宮ノ宮ハ春ノ宮ノ宮ハ春ノ宮ノ宮

武ノ宮ノ宮　琴　はるとの文也　細　橋姫の姫文也　ヨロヒ

しとちるのとの五月のつゆ　チヒロ

むらうれとるとまちのうれかまりあくさとやもしの

ゆへとちるのよのいむらうゆてに文武ノ宮れとへとるを

行へとまるのんとるれとも源とるとのとうひあまとまう

紅ノとのんも

かくとうさいるのうひあてんあるやうるんとひんるて

白うまくとて見るとる　宗　或ノ宮ハ源の清とうとる

まとうまくとんうまくきうりあくいんるの

とやさまとうのて出ノとやもとくれんとうと

ちるのとうりうのみくうる新清るくひりうをとうとても

の紅ノとをにうるまを

ちるやむうれとをちるのきるあれと　宗　武ノ宮

とうにを紅ノとをちるハそれとも

とくうひ我とうりうとるとんのまくとも

清もとそれそとうるとにつまとうるとれるとたちくさや

くし給　黒　ちねのせん殿乃天皇八式ゑんのもとや　ゆうとのあい
ちうさまいりてくだつをまてとも難くの後とゝ給ふとも樣
柏乃ものをとられたやうたの也　元細年　同
ゆうさうりつきてを　元　ちねのゆうとるれとそれをみてを
ゆうとのゆうをみくも
こゝのようそうさ行ものひ物ゝ　細　獻物　簾物　儀ちう
ちうひいの　黒　簾ゑ入る物田中ゑんさ乃ゑ也　折捷物
花
外記　元亜出二年四月廿五日清雲中殿ゝ敷ゑの紙ゑ入
蒸餅　執　搾物　蒸廿　搾　筆蕨之載式　長鍬　鋸し　次
折捷物　蒸廿　棒　菓子　伯法物　盛小餅　亜梅柳枝　ゝ下執
中納言ゑ入ゑ物ゝ　元　夕雪ゑ乃ゑ也ゑ入ゑ物ゝ
ゆうゑ入ゑ乃ゑ也
黒　ゆうゑ入ゑ乃ゑ也
ゆうゑ入ゑ乃ゑ也　黒　ゑ乃ゑ入ゑ

細 箭の紙をもて引ものとをとりの人行也
宋
むらつくろ結はせまるれば父母有の樂のまとをとり
ちりとくちりそうやも
やうくまもる中に和哥をハうれ和哥とハ
ちとをうさるものとをれてとをとりあてをきるを行へ歌
ねとをとをひをれとをとをのうきたくみくをを行へをまを
結の 宋 ちをを四月一段ちををあるくひきをまを行をを和哥をを
迷ハ宮ちへををうきたをてひを行ををを鳥の大意歌辞
題 結をををを

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]ん[illegible]とも[illegible]ため　朱　[illegible]八[illegible]右[illegible]脇　朱雀院の
[illegible]と相[illegible]の女官[illegible]
[illegible]内[illegible]一[illegible]
細　朱雀院の同腹[illegible]ひめ[illegible]
[illegible]の[illegible]
[illegible]の[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

源氏院号の宣旨は八月の末より雅せらるべし
入道宮同事也 朱 女御宮の入内の儀ひく所
の御つとめ源の氏の人御剃髪ととまるべきなり
人々とかくのもの 朱 ことわりしかるべきなりのことも
はさることにて上皇ましまさるとあまたの御ことに
人納言とやとうしかるべきなり 細 義大納言也
清涼殿のまへより殿上人ひとりまいりたりと
出仕人参ひとりまいりたりとも 細 殿下はまいりたりと車と
うちのるや今源氏院号のうちの
八源の遠退の事也 朱 殿下はまいりたりあの男
出仕人車よりとあるとも又御所ちと入内のはてきやと
みそかなるや六条院とも
らむ御へとさやうめしかるべきなりとも

河源氏院号の宣旨は八月の末より雅せらるべし
入道宮同事也 朱 女御宮の入内の儀ひく所
の御つとめ源の氏の人御剃髪ととまるべきなり
人々とかくのもの 朱 ことわりしかるべきなりのことも
はさることにて上皇ましまさるとあまたの御ことに
人納言とやとうしかるべきなり 細 義大納言也
清涼殿のまへより殿上人ひとりまいりたりと
出仕人参ひとりまいりたりとも 細 殿下はまいりたりと車と
うちのるや今源氏院号のうちの
八源の遠退の事也 朱 殿下はまいりたりあの男
出仕人車よりとあるとも又御所ちと入内のはてきやと
みそかなるや六条院とも
らむ御へとさやうめしかるべきなりとも

殿下はまいりたりと車をとうするやと
院中はまいりたりと
宮人のとくとくまいりたりと
殿上人のとくとくまいりたりと
殿下はまいりたりと車をとうするやと
海はまいりたりと人々とも一動
とくとくまいりたりとありてうちの
とくとくまいりたりとありてうちの
とくとくまいりたりとありてうちの
とくとくまいりたりとありてうちの
とくとくまいりたりとありてうちの
とくとくまいりたりとありてうちの
とくとくまいりたりとありてうちの
とくとくまいりたりとありてうちの
とくとくまいりたりとありてうちの
とくとくまいりたりとありてうちの
とくとくまいりたりとありてうちの
とくとくまいりたりとありてうちの
とくとくまいりたりとありてうちの
とくとくまいりたりとありてうちの
とくとくまいりたりとありてうちの
とくとくまいりたりとありてうちの

[illegible]
三日の程をうけ給はりしかども
やはりとはばかりし給へ　宋　さうひう情をとりたるやう
たいらうへもそなたにうれてうたてにたるもあるのあるにも
ようもたにうれてつきてうれくんよりおとりてうこと
ともあるつまうれとうあるあるにあらひ行くく
宋　はるてしとも女三宮のうちうちにあるとことにかれくあるうひ行
ようをもしうたるあるあ
花やうにおいさんたるうくにはるあるくうひ
行つるにあるうしあるあるくあるうひ
なりて　宋　女三宮のうちうちにあるうれとうはるのこまて
うれ行つるとはあるうれとも女うはあるあるあるあるあ
ひ行つるうしあるうれたるうくあるうひ行へるも

[illegible]
陣にうれたるうにあるうれたるうにあるうにあるも
のとうちうにあるうにあるうにあるうにあるうにあるうにあるも
宋　女三宮はあるうにあるうにあるうにあるうにあるうにあるも
うにあるうにあるうにあるうにあるうにあるうにあるうにあるも
をうにあるうにあるうにあるうにあるうにあるうにあるうにあるも

[illegible]
つとらうしをうるにあるうにあるうにあるうにあるうにあるうにあるも
をうにあるうにあるうにあるうにあるうにあるうにあるうにあるも
宋　女三宮のまうをうるうにあるうにあるうにあるうにあるうにあるも
をうにあるうにあるうにあるうにあるうにあるうにあるうにあるも
宋　源と宋と同じく女三宮とあり
うひやうにあるうにあるうにあるうにあるうにあるうにあるも
いとくあるうにあるうにあるうにあるうにあるうにあるうにあるも
細　宋と源のあるうにあるうにあるうにあるうにあるうにあるも
のあるも　宋　宋との女三宮とあるうひ行へるうにあるうにあるも
にあるうにあるうにあるうにあるうにあるうにあるうにあるも
宋　女三宮はあるうにあるうにあるうにあるうにあるうにあるも
うにあるうにあるうにあるうにあるうにあるうにあるうにあるも
をうにあるうにあるうにあるうにあるうにあるうにあるうにあるも

れもとさきたのゆりもとうのそらにいるに
うまれさせたまひてのち　宋　紫上とたつのとりの時の
ものやうまいりたまふとて　細　女三宮を
とりたてまつりたまひてのち　宋　女三宮を
一ぢうよりとさきのこと
みくまりにとりたてたまひてのち
物のこりとあまりものこと
日ぐれにかりのくるまにのりたまふ　細　横笛をとの給ふ
有まりてさとも　宋　はつかなるまりきとも
女三宮は紫上とあらそひたまふきはにまれ
とりたてたまひて源氏の君のめをとりたまも
年はてたまひぬれば四ちよのつれと行物なり
紫上の物也　宋　一ぢと源のうまれとあそたまひぬ
とりたてたまひて源氏の君のめをとりたまも
細　源のうちや紫上とさきとてみとりたまふ
とりたてたまひて　宋　ものやうとて源のうちりの
やうのものとと紫上を
しきの物也
ものくくにくくにくくに

ゐひとりやうに女三宮とひとへ行とゝの
わらはれと中納言とはいとゝ
我ものゝ心ぢくおぼしつゝ
細 久方の雲井の雁のゆくへ
こゝ行くゝ
きゆへとも 第 ゐんもりけぬ
ちりひちりとも
とゝ
第 女三宮へゆゝ行へとも
又さらにもとうの
清んのうちゝ
ゐちゝ
ちりちりをもゝ
ちりちりやハ源のゐんとゝしちりゐ行とゝの

ちりやも
もゝ
細 第
こゝ
ちりちりやハ 細 第
ちりちりもゝ
や源のゐんとゝ
清ゐ行りんとゝ
ちりちりとゝ
ちりとゝ
ちりちり行へとゝ
ちりちり行へとゝ
ちりちり行へとゝ
ちりちり行へとゝ

ひくく又信の君なりもあり
の給ふ源のなりを君上のうちの給の河ある人
うつうつうさへおぼしてけうとつをつき給てよもすがら
ぬれたるもとをとりきりを給く 源のけうとつき
てうつゝ給さまとうつ
給をもとりもひきうをく 細 君上也
ゆふちくうつまいうそ源宰相をゆくもとくきのこけうれ
細 さうめちなりのもと 源 君上の三むいあさうも源の君
給りて三宮をもとへ給て眼(セニ)ありうつ給ゆうとと
さてもとりもとくくわうのうるのもとうつ給へう
ほ 君(キミ)を集女ものもとをとををうり
桂殿の下系よつをてめちくうへのんををかる
めることをとをまをとりてをんををうれきうのまれ

ともばかりもとりけく 源 はるかうつうるとおまる
うを給をとうつ
いのちををもたるあるめるなよのつのちあぬ中れをと
元 いのちはををもとひうもとをはるをうるまをしきをも云
四ののはいるめるなをのあるうもひあるぬちうとつよ細
細 ムニンの英はをるのをめるなをれたくひあるくはなる
ともや 源のうへうをと君上と源とれちうをとはのの
はるめるなをの英りあるくはるをかとにをもをひたゆ
細 るこをとるうて令ハハゆうるもちうを云へうををも
をうをあををうををとをとうをうをうれををうを
ををうめうのををへはるをうをはりををををはる
ををりをくやうを給をうををををををいをあるをは
ををうう 細 源也 源君上の機嫌(キケン)をうをて安うへを源

おもうなげきをつゝみあへぬ御ものいひ
年はさまやうにうとましくなりまさるこゝろ
ゆるされぬひとりさまにかくこそ
あらくてかくるのちをみるもものうしとのたまはせて
よはひさかりもすぎぬるをいとはしくなりぬれば
御
ゆゑ上のゐんや權亮ちゝとの
ゆゑもなきにんのうあるひしりとなれもてゝ
にゐられぬとやうれしくもあるとこゝろあはせきこえ
ものたまはせぬ女三宮はまだ御ぞ
ぬぎかへ給はぬ御ぞ
ぬぎかへ給はぬ
ものゝあはれにはかなくてとしのくれぬる
ことゝ思ひ給へ
まゝにそいとゆゝしう
さきのよの
ことゝ
ゆゑ
ことゝ
ゆゑ
ことゝ
ゆゑ

ゆふ

ゆふこのわらんあるとくうるるこそうつきまくくとい
てきちんうーちとものがまてうちくくひちをうしけな
るをと、宗 女三宮ぬりやうにとらくひくはくくそひあそ
春にあれはあもとくくしはまーきやみさうのて
をちぎんハやをうしぬるをとあくハうをうてうん
と女房たちれてくくひあけく初也
雪をはーらあやうにてをきをひはくくあはるをし
行ひつ和ををまてあるん 細 宗をやはくあをを
はをうはも

叩くんのをくあーををひをうをやあしをあるくく
細 宗乃也
叩くされをまはまをあーはめれと 細 宗この初也
源氏 清んをうをひくんをめくくをくれあるをうあをと

をやをうれてをくくしくあるくくをのをやはく
ちらと行つををやをうれ 宗 宗をとをめてうをうはん
をくくをくくをハ女三宮はををををををのあや
をくハはををの也
行をくハんのををあやくん我をもをひをくてくまを
はくをとおくはをくをくをくあをくをくにんくやをとををんと
をくくん 宗 宗をのあををはをはやみ三宮ををひをく
をひをうををんをあーをををををををををんをのをを
ひをくをくはををををををををををををををををを
乃くをはをををををををををををををををををををを
ををはををををををををををををををををををををを
をんををををの細 宗ぬををををををををををををを
をくくくををををハををををををををををををををを

[illegible]

[illegible]

[illegible]

へ原のまてらをとんとうまやとんとそうも
うと入給ふとも
心ゆかぬ事なれ共入給ふ事
ようらうさしてさうれくるよりとて行さうぬそ
らもれとうのさ原乃清とうまれ
宋 我ものとんのとうとんうんとも花宿
つ原そうあるうもうれまを行てうと
らまうとうと 宋 原あるうせにそうのとうそうとう
うんと思うそひ移ひとも
あるまうそれとそうちうさうこうこうれうとうあり
さ原そう 宋 分れうあるうさうるとと原乃清るのこうる
しうるうとも
河宿
ゆにうとうふのある時い我身とこうそうとうるうき
ちくそれまうさまとんと命をうひちうかうこうん
つうひあうこまう せうそうあるうる 宋 原乃業のまさ
まに生うう原れあひうにいのちうそんとうるうう行
つううひとあうへこうるうふとうろうのうるうとうひうと
しう行うも
物ちうれうるうのをうひ物やうこうかつうも行つうき
行うあを過くうう原へくおやうとやこうんとううと
こううう行うあると行つうをうう和うれうるれう
つうううこうあううも物を花うう和うう
日うきうつうこうあうとうやうこうひうるれうのう寺や
宋 ぬううこうれうとうを原乃清ものうう行うも
あうやうのうゆめに乃うう行うう原れこうう原うう行うて
つうふとうふうこうう行うこうるのぬうちうて行うきう

細 源の清経也

[illegible]

つきなれも 宋 [illegible]

女三宮 源の[illegible]

[illegible]

宋 女三宮のことをいふ

あまをとれりとて宮はそうもなくて

やまもるきりあり 宋 月晴也 あまをとめ

河 月をまれなりとて我はまひぬるとふんりゆうあまたしく

[illegible] 源心 [illegible]

細 [illegible]

[illegible]

河なりへし

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

ゆんやあるやとそうぞう法へ入て法をあてるゆへちやされハ
初り出したりとうてう
ちとあるるものの浮世やとあはれとおもふて
もてとかし 細 源ろん 宋 ひまりもとあるものもとあた法
あてるやうのんも
ひとろうるとはくろうんをあをとと 宋 法のおもひめを
あをとあり ひとて女三へ とうれ とこの源ろ四也
えさもあしぬとさをかもひ とて ひとうるとを
あつうとうをを 宋 ちとはしぬとをかるとのんも
ひんのことくはくろうまのをさをこひしとうし
とうろう源もうをまとんうるうくこひつくをかつも
女をとこひやりあるくはんうれとうるうるを 細 ちとも
宋 はをこのあうへ源ようはおあをさるくあへこひやりあるをとく

うるうるうをかをうるうるをかをうるうも
あをさをまいのやうにおあるうるうくをかるく宮の庫
うるに源ろをまをかる 細 あるあるへ
うとにうるうをもうるをとはうるをとはうるをとひさひく
ろひく 細 へうるを物しうるをかるにかくうるをかう 宋 女三
宮いうるうをあるさはうるを法をあるうるをまうるを
へあるるとはうるひ行也
さうるうるに 細 もうるうしうるさ法也
中うるををうるかとハあるれとうるをあるさうはうるゆさ
元後 うるうるうるうるにみるるを源の雪ハ物をふへのうるうるとうる
細 さうるへうるかとの宮ものうるあるへうるうるれるるも 宋 源ひとう女三宮と
の向ををうるかとの雪みとはうるをまをとも四ちるあまを
しうるゆへにあるれあるとう雪にへうるれハへうるうるを

国立公文書館
National Archives of Japan

それを、梅を評して云ふ

梅はうつくしくかつうるはしくもあるべし

うるはしの説、宗は梅のあるひとは梅はよたるべ

ものとなりとは梅をうるはしくもあるべ

紅梅はそれらをもとめはべるべ

梅はうるはしと梅の花は白をもて柳は梅はさうなりて

花は紅一重にうるはしくさきたる花のうるはしを評し

ていはくにくさきうるはしくさきたる紅梅はうるはしくさきたる

のうるはしくとうるはしくさきたるやうに花のうるはしくとうるひ

てはうるはしくさきたる

うるはしくとうるはしくさきたるほどにめでたきものはあるべ

さうにはあるべ花はうるはしくさきたるほどあるべ

しにうるはしくとめでたきものはあるべ花の

花は

花のさかりに梅はよりはるかにうるはしくとうるはしくとうるはしくと

国立公文書館
National Archives of Japan

ゆくへもしらぬ也　宋　源乃心　女三宮のくまのまうでの
はてのくれあつまひ給へるを宮のおとゝ
のまもしらぬ也
たゞかりそめの給へるを宮のおとゝ
はいとのこゝろ也　宋　女三宮
はいとのまさりたまへるをうらんかなしく
思れ給へるなり
なるべきものの給へる也
地　宋　宮はたゞにのみ思ひとにうちをはゝ
し給へるは安給へるなるべし女房なとをまゐりてみうひ
あるとゝもゆくへもしらぬ也　宋　源心
人くして　細　源の心くるしき也　宋　三条院はゆるしつゝめてん
なるべし　宋　源心
ものとゝ心
ひとやすれはかりさ侍ひとをおもてをかくしまめやかにもてなし
ものとてうちとけなる女宮はいと
はかなくもあるかなとおもひたるもいとをかしく
細　宋　源はとれはかりはかなくもあるかなとおもひたるもいとをかしく
らもとゝや　宋　源心ひとりとゝめてはかりうんかな
くとゝもしるしなるはかりはかりあるかなる
もいてうんとゝもいとをかしく
ようやくうるはしくなりまさるにつけてもいとをかしく
さはかりあて　宋　ようやくうるはしくなりまさるにつけてもいとをかしく
いとはかりもあるべく　宋　女三宮はちいさくまうまをはかり
もとうのはかりもとくうちたるさ侍とうり
見もとくはへうりまさりたるとゝし給へり
あへな　宋　ものをはかり
たゞちのものもとゝしてんかもとくうはへ
きさまし給へり　細　いとさるれ給也　宋　いとさるれ給

国立公文書館
National Archives of Japan

んはとりし給ふんとやも

はやりいるさ〻めかとなりとも　宗　源のんせるさ

いるさ〻ふにあ給ふるとのんや

さそうるさ〻ふるさ〻ふれやありりと　長　それんのさる

ゆとさうめるさいてあうさとやも　宗　一段とられさ

るんさまれるやも

さうくにそあゆうかられ　宗　んさ〻ふくさるあと

いまさくるぶし給ふるのはんや

さそれさひいとわくまりさ給ふるうさ〻空はのそに

長　源のんる女さあとさうさにあさひいたうはまか

しる給ふはのしと宗さ〻ふさ〻あうへん給ふへあお

ひとうくに我るうさもさうくとさへたてさるとさりる

ともし細とさ空とあいうはるのいうさあうされさひ

やりいうあうさへしとや　宗　女さ宮ハうさうてさく

て長んさもんとうまさんはるとや

さ〻あうひめうまさん給ふる　細　宗さんハ我うくさ

たてうさとや　紫　ひ宗さ〻り年月ふれ給ふしとさや

めうしはうさもさいうへの法宗給さちをあうくさを

出ふうさもはつうさてあうさとはるて一段のるとあり

あるのさもあうくはるれくいるくしき給んうされ

ふうさうと　宗　女さあるのるうさ給ふくはうさ〻宗さをたり切

うり源のはりはめうてとや

ちるとうくはるゆうんと給ふしうさまりてちん　朱　像のみうとさ

宗　源の給ふるさ一段のるうさてとるうくはるさとうしひし

くさひるうさうとうまさ　宗　ふうさうるふとうて見給ふとうまくさ

うの給ふうさやうくしうあうりはめうるとや

月はてらんとそこなうらひ行ぬ 細 二月中也仁和寺
うつり給也 於 女三宮ハ六条院へうつり給也
宋 女三ハ二月ハ六条院へうつり給月ハ六条院
源氏物語 源 清涼殿へうつり給也
六条院ハ後ハ冬殿へうつり給也 宋 源の清涼殿
へうつり給也 宋 雀院へうつり給也
桐壺院ハ清涼殿へうつり給也
中宮ハ春宮ハ六条院へうつり給也 於 六条院へのぼり給ハ
ハ西ハ春宮ハ我ハ春宮へうつり給ハ
し色行給也 宋 清涼殿ハ春宮へうつり給也
らさきのゐんハ院のうつり給ハ
ゐさきのゐんハ春宮へうつり給ハ
まうきてまてうつり給ハ

源氏物語

ゐさきのゐんハ春宮へうつり給ハ
てうつり給ハ
ひくゐさきのゐんハ春宮へうつり給ハ 細
うつり給ハ
さきのゐんハ春宮へうつり給ハ
ゐさきのゐんハ春宮へうつり給ハ
女三宮ハ六条院へうつり給ハ 宋 院の御所也
御所也 於 ハ
きさきハ宮ハ 并 於同
ゐさきのゐんハ 細 院ハ六条の御所
てうつり給ハ 宋 女三のゐさきのゐんハ
御所へうつり給ハ

[illegible]

[illegible]

[illegible]

国立公文書館
National Archives of Japan

きこえんかたくんぞ一たびあらんことをもとめ
ゆくのこゝろはてるることをとくこゝにものさみしきこゝろ
ゆくさきのかとに　宋　源乃くんや　勝月秋のうや
いとおもしきけしきをめさきにたちとゞまりゆくまにまにうつりゆく
ほくこゝろとくしゆくるを　細　きさけうつるひのうや
ゆくのこゝろやうにあり行のく　宋　陽乃山ゝるまはるや
世中ことこゝひたこゝまり行のくこゝろんこゝろひの古ゆくこゝ
ゆくしくんもとものをれたゝ行るまゝしさことをあはれあるく
たくこゝの古とゝくこゝひよまとつゝもてゝなりれたるさ毎ゝはひよ世メ
こゝ行ゝ　清美乃ゝ世ことひ行ゝ源乃古ゝんや
わくくしこゝくゝ清あこゝひあくこゝねゝ清みゝこゝもゝ付くこゝつゝを
ゆ世くこゝ行ゝ　宋　源と勝月秋とのゝ乃ゝゝや
しくこゝゝもこゝゝれくこゝのゝゝ　宋　臘月秋ゝ二

行ゝこゝくゝくゝくゝのゝ　きこゝくゝもこゝいゝ行ゝきこゝ
清ゝ世ゝこゝひゝと乃ゝ行ゝみゝも行世ゝひゝくゝ　宋　文ゝゝと乃ゝて行ゝ
ひゝくゝ世中細ゝ乃ゝ美ゝのゝもゝこゝみゝゝもゝ乃ゝ行ゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
の行ゝ　細　昔の源乃ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
うゝくゝのゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

宋
源右大臣実朝のもとの給つり
そこなりもしくはしらしとてつりをこ
くるまんなりとの給ひ宋 臘月和泉の国
はかりこんかもそれとやはしらしとて和泉の
ゆかりとも給ひつるとの給ふ
結れたるやうやうとひしりるにつきあもしりとつく
きはのとそこに宋 臘月和泉の国
和泉なるうそや源の清中とのたるとかたりもしる
つとはしらきはんかもそれ源うまとの給つり
ひとりまにうれしきはしとてしりわる者うとう
そこにんまにひとをきもやまとさうのやうなる細
るや宋 源の清中とのたりもしるとて
うかりや

宋
源のこんやとりとあつりしかとも細
弘徽殿の大后宣旨とにもあるもの
思ひうるもいかにうとも
もにうもさきもひなる清うあうしたやうあんの
どあうけりしるあもあしねそ宋 院の内とも
いまうもあさやうにうまうまらて宋 うまたありとも
るあやや
うまうあ我為とけうにうるうるうる

行ふ事なれば源ろんもちやう
ひとりなれたちまちわるぶとたちまちにたるまとしたるやう
世間にはたらくこと、宋源乃和尚ありあはせぬ事也
こうたうなれば行ふ人あるべきまうて行ふ細和尚なれば
世をいとうり宋和尚寺とあんあるべやとれんとうり行ふ
森ハ和尚寺月の世をとれば和尚ありくれとくいとうりまうる書
相也まうをまつるみあもとうるるや
[illegible]なるものなれば相ひくをもるを枝よりまてあるとて次へ
如来あるを、宋世をとあるを東院よりありもんに東橋のところ
ひ行へをまとをひ行ふと行ふ源の領也東院と
ハ二東院ふると東院也
東のあんりものをとひひとうたれ東のひとうたへあるをさく
ありにうるとあをさとうれまをたとうりのをいとれ

くそうるんにうるもあるやうにうるんもひうるをとまのまや
ハりあるとあるとうるをとうるをとまをまをまをまを行
て、弁二東院の東院也宋
いとうるくんあるさうに行をまをいるとあるとうるを
あるをもあるとうるをとうるをとうるをとうるをとうるを
たうるをあるをうるやうにあるをとうるをとうるをとうるを
相をうるをうるをとうるをとうるをとうるをとうるを
とあるをまをうるをとうるをとうるをとうるをとうるを
うるをとうるをとうるをとうるをとうるをとうるをとうるを
相をうるをうるをとうるをとうるをとうるをとうるを
をまをうるをとうるをとうるをとうるをとうるをとうるを
乃場をうるをとうるをとうるをとうるをとうるをとうるを
行をとも

[illegible]
[illegible]
[illegible]

細 源のしたゝ 朧月夜 ちかうかよひしさとの池 宋 豊乃元
のしたとそのくさうもさうくしきかとそひ
行とも いとうつくしう月おもしろ行四やかなり聊なるあう
まつさとのもと
清月ゆうさるれいはうれもくあること 宋 これもこころ
いとくもとへうくしうかおのへさはあるれと
たんもはひりうつくしうかたさやをうこうう
池 宋 二条院女房歌
をんうしれさいるりと
きうこうつうれひくしにとへなりてんさうれたうとはかる
められい 花陽 はるくなかもてんのうとうのかとうして
きうさくとうくうんちうへ
いとけうやうるう 細 源の河 宋 豊乃元れさまの紙つうう
心地とはうるう
乃なの朧月夜と源のくしくあるくしくわうくしくあるれい

りくはうとうう
年月のはのるとうとうきうくうるくしのる
ものくはのはめりくきさいくうくうはくくうそのうくうはる
宋 年来れはんさくとうはまちれよ四位殿のあか
めさ行ものくうつきこの源のんも
和くるくるめとゆくむ藤るはうあをくうとうくうちると
ゆるくて ちあくとんめとうくちれ宮れうものうはる
細 鳥 河 鳥とうるとかうくうるはるくう
芸の池のもとにはうるうくう
さとうう行さう那とおのはくうれ宋 大石れあくう
ましはるとおひ数るの源のんも
年ちうまのあくはとまくとてなうるまうるるん 河 平仲
仲文女とうとにうくうくとうとて 硯の紙

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

女鏡とおもふ[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

河

めらひとれ[illegible]とはいふまじとおもふさうれせ[illegible]とそめぬ源ありけり
るどくをもとをもれ[illegible]ゆめ[illegible]へ[illegible]とあ[illegible]ゆ[illegible]ふ[illegible]ゆ[illegible]
うをもあ[illegible]ふ[illegible]ふ[illegible]ふ[illegible]ふ[illegible]ふ[illegible]ふ[illegible]ふ[illegible]ふ[illegible]ふ[illegible]
ふ[illegible]ふ[illegible]ふ[illegible]ふ[illegible]ふ[illegible]ふ[illegible]ふ[illegible]ふ[illegible]ふ[illegible]

花をこれらうもをたくさんおりひろるまもなくかれぬる
るこころも、細ちりもくちぬるや
むらさきのこんしゅうはいとはなもとうしやおほいん
つるをつきぬはめるまにこころもとも、宗ものあるを二条院女
院寡かしの時臘月祝と源の宰相とうしうしうしひ
しるやこゝろおほかるや
うれしうのことうこうをこゝろ長うは月さ侍中納言殿
ものとくるとてはきゝやをくしけるをこゝろにさしうしく
宗
こゝろうこゝねるとゝこゝろや
いこゝろよりふこゝめうこんいうあるこゝろをとるこゝぬ心ちこゝふ
ひふこゝこゝうこゝうこゝうこゝ侍をたちもこゝうこゝこゝこゝこゝ
てうこゝにこゝ月こゝこゝこゝひたうう細臘月祝のこゝや宗面八幡の
こゝとこゝうこゝ月こゝ侍こゝ一條のこゝうこゝ

とこゝ細
中納言
こゝこゝはこゝこゝこゝ上こゝこゝこゝこゝこゝこゝこゝこゝこゝこゝこゝ
こゝこゝこゝこゝこゝこゝこゝこゝこゝこゝこゝこゝこゝこゝこゝこゝこゝ
こゝこゝこゝこゝこゝこゝこゝこゝこゝこゝこゝこゝこゝこゝこゝこゝこゝ
こゝこゝこゝこゝこゝこゝこゝこゝこゝこゝこゝこゝこゝこゝこゝこゝこゝ
こゝこゝこゝこゝこゝこゝこゝこゝこゝこゝこゝこゝこゝこゝこゝこゝこゝ
こゝこゝこゝこゝこゝこゝこゝこゝこゝこゝこゝこゝこゝこゝこゝこゝこゝ
こゝこゝこゝこゝこゝこゝこゝこゝこゝこゝこゝこゝこゝこゝこゝこゝこゝ
こゝこゝこゝこゝこゝこゝこゝこゝこゝこゝこゝこゝこゝこゝこゝこゝこゝ
こゝこゝこゝこゝこゝこゝこゝこゝこゝこゝこゝこゝこゝこゝこゝこゝこゝ
こゝこゝこゝこゝこゝこゝこゝこゝこゝこゝこゝこゝこゝこゝこゝこゝこゝ
こゝこゝこゝこゝこゝこゝこゝこゝこゝこゝこゝこゝこゝこゝこゝこゝこゝ
こゝこゝこゝこゝこゝこゝこゝこゝこゝこゝこゝこゝこゝこゝこゝこゝこゝ
こゝこゝこゝこゝこゝこゝこゝこゝこゝこゝこゝこゝこゝこゝこゝこゝこゝ
こゝこゝこゝこゝこゝこゝこゝこゝこゝこゝこゝこゝこゝこゝこゝこゝこゝ
こゝこゝこゝこゝこゝこゝこゝこゝこゝこゝこゝこゝこゝこゝこゝこゝこゝ
こゝこゝこゝこゝこゝこゝこゝこゝこゝこゝこゝこゝこゝこゝこゝこゝこゝ
こゝこゝこゝこゝこゝこゝこゝこゝこゝこゝこゝこゝこゝこゝこゝこゝこゝ
こゝこゝこゝこゝこゝこゝこゝこゝこゝこゝこゝこゝこゝこゝこゝこゝこゝ
こゝこゝこゝこゝこゝこゝこゝこゝこゝこゝこゝこゝこゝこゝこゝこゝこゝ
こゝこゝこゝこゝこゝこゝこゝこゝこゝこゝこゝこゝこゝこゝこゝこゝこゝ
こゝこゝこゝこゝこゝこゝこゝこゝこゝこゝこゝこゝこゝこゝこゝこゝこゝ
こゝこゝこゝこゝこゝこゝこゝこゝこゝこゝこゝこゝこゝこゝこゝこゝこゝ
こゝこゝこゝこゝこゝこゝこゝこゝこゝこゝこゝこゝこゝこゝこゝこゝこゝ
こゝこゝこゝこゝこゝこゝこゝこゝこゝこゝこゝこゝこゝこゝこゝこゝこゝ
こゝこゝこゝこゝこゝこゝこゝこゝこゝこゝこゝこゝこゝこゝこゝこゝこゝ
こゝこゝこゝこゝこゝこゝこゝこゝこゝこゝこゝこゝこゝこゝこゝこゝこゝ
こゝこゝこゝこゝこゝこゝこゝこゝこゝこゝこゝこゝこゝこゝこゝこゝこゝ

ゐもと、花瞻仏ハ女御ちとゆ[illegible]
ふたり袴ぬくとも[illegible]
移ゝ中ゝ添ふ[illegible]
と宮の御ゆ[illegible]
きゝ[illegible]
[illegible]
やみ[illegible]
[illegible]
[illegible]

国立公文書館
National Archives of Japan

[illegible]

第 源の[illegible]

[illegible]

[illegible]

とうとき法師にあひたてまつりて　細　源の河　宋　をきてつとめたてまつる
してせいはさるべきにんちをはひやうにしたがひたまを
しるべきなり
このこと行りんあるべし　宋　法師の氣色をきりて
門内のちうへわたりて行ふとやすらかなり
はるけきあまをとこにえわたりて行りんへさとりのくれ
くしまんに　宋　女三の法うをもとめてとも宝上てどもしへ行とく
ものとなりあるとも
姫宮はとものしゝぬとおもうしてそやもとうしに
やすらもう　宋　女三は源ものしりぬとも法ん行りをもなりぬ
とはめのとたちのやもとしぬをとをもとも
ものしりうしたちとのたまをしたるこのことをもしりう
あまをとこ行りんとおもうしてわたりきてわたりぬ

こひやすく行りて　宋　源のんもそをもとうしてとは宮ものしてとも
しまをきは法師に行りてんをもとうしりぬ
桐壺の法うをもとうしりへえまをもて
をれとも心やすくなりひ行りんにはいとも海のあるこ
をのこ物はしたりるは法をもにいとしるす
ゆるしはのこ行りひえいとものしるをとをもとも
うを　宋　明石中宮のうるはしきをとあり　桐壺の法
宋　うんは退出をもとめんも　細　ぬん姫をもとも
ものしりをはしたりをもとうしりをもとも
まをいとあへうるものんは　細　古懐姫も
物はをとんう　宋　ぬん姫宮はひをうをうをのんも
ぐうりてさうて行りて　宋　ぬんのひあをを退出のるも
姫宮はものしりまをすやとしたりんうをはをうを

ひとりも、細 女三宮のまいりたまひしあしたの事也
西の対の東面也
ひろ〳〵とはるかに今はかぎりなきをあはれまし
さはなくせりうう、細 女房たちつゝ侍也
きのうのうへのこゝろにたるまゝ、第生上
の姫宮の御方の御ぶくのこゝろ
姫宮あるは中納言あるはてゆるんうしろやすきたつ
うとはなれてゐたまへるはまことにまゝ
あるべくもあらんかなるべくとやすからぬ事也
第上宮 細 女三のみやは
とも 第生上 御ぶくのこゝろ
うちにて、一細 源也
ものやうにあらはるゝ事なれはあさましき

ゆるすべきことゝうちやすらへ給へりと、第源氏
こゝろあるまゝ、ゆるすべきことゝ
たきあるべきにあらず侍とは女三のみや也
ゆるすべきことゝ 第生上 御ぶくのこゝろ
宮うちとけ給へりしけしきのこゝろを
ものをはかなくもまゝ
らうとたゝ侍りしもとゝ
細 ものはかなくもあるかの宮の御方に
なりうるうちにに侍へり、細 源氏也 第生上
のこゝろもはるかに姫宮のうへ
まもり侍りんとひあまたの侍也
きけいさにきいはんせんとそたつねそにたつき
ものこゝろをまもりまたにものこゝろをゆるしあらはに侍へ

[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]と、細[illegible]れ[illegible]
[illegible]は情[illegible]や　第[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

母君はあるべきにも　仏　行くべき
君とのみ　ものをも
いとかりそめにとまるべきにもあらぬを　宋　君とれば
四人の姫君はあひ行て　御　細　君とのみ行べきにもあらず
よのやうにかりそめにとまり
行ひ　仏　宋　君とのみ行べきにも
くやのこうり行て　中　細　君とのみ行べきにも
よのやうにかりそめにも
いとかりそめにのみ　細　女三宮　君とのみ行べきにも
思ひ　宋　女三宮　君とのみ
いとかりそめにのみ　仏　宋　君とのみ
行べきにもあらぬを

しるべきにもあらぬを　宋　細　君とのみ
さるべきにも　仏　女三宮　君とのみ
中納言のめのとにやうにみゆ　細　女三宮の御めのとにも
行べきにもあらぬを　細　阿　我やとくたのむ　女三宮　君とのみ
細　清涼殿　女三宮　源氏宮　光源氏　君とのみ
なるにも　仏　君とのみ　宋　女三宮の御めのとにも
とうあさ　宋　君とのみ
うとくなる　宋　女三宮を　君とのみ
はいかにもあらぬ　宋　君とのみ
あるべきにも　宋　中　細　君とのみ

国立公文書館
National Archives of Japan

国立公文書館
National Archives of Japan